

だいた次第である。

ジャワ女性の性格

別 技 篤 彦

これは私がインドネシア人から聞いたジャワの「原始女性」誕生の物語である。

(註一)

一 ヴィスヌの神は天上の神々を創造したあと、地上で新しい生きものを作ろうと考え、まず最初の男性ブルワニン・ジャンを創り出し、これを庭のほとりの池のそばに立たせてみた。しかしただ一人ではいかにも淋しそうなので、その相手をもう一人作らなければならぬと思った。あたりを見廻すとヴィスヌの神の眼には、さし昇る朝日の光に照らされた池の美しい蓮の花が映った。「これは美しい。ひとつこれからもう一人の人間を作ってみよう。」神が命ずると池の水面は震え蓮の花は最初の女性となって現われた。そこで神はこういった。「おまえは今までは池の花だったがこれからは人間の花になるのだ。アブ・ハワという名前を与えよう。そこで、今おまえの一番望むことは何か?」「私はどこに住んだらいいのでしょうか。少しの風でも私は恐ろしいのです。どうかよいすみかをお与え下さい。」「おまえは高いスメル(註二)の山の上に住みたいか?」「スメルは美しい山ですが、寒さが恐ろしゅうございます。」「この国は海に囲まれている。海のなかに美しい家(註三)を建ててやろうか。」「でも海にはあらしがあり、海蛇がいます。」「ではテンゲルの砂原はどうか。」「砂のあらしが私を埋めてしまうかもしれません。ヴィスヌの神は困ってしまったが、彼はもう一人の人間ブルワニン・ジャンのことを思い出しアブ・ハワに言った。「人間の花よ。いいすみかを見つけた。このブルワニン・ジャンの心の中こそおまえが安心して住める場所にちがいない。ちょっと中をのぞいてごらん。」アブ・ハワは神の命ずるままにブルワニン・ジャンの胸に顔をおしつけてみた。すると彼女の顔はたちまち蒼白となり、体がふるえた。「人間の花よ。どうしたのか。」「神よ。この人の心の中には、冷たさ、あらし、暗黒な洞窟などのほか何にも見えません。」この時、神は、おごそかに教えた。「人間の花よ。それは心配することはない。この男の心に冷たさがあれば、おまえの呼吸で温ためてやれ。あらしがあれば、おまえの愛でそれを吹き払え。暗い洞窟があらわれたらそこを照らす光となってやれ。それがおまえの仕事なのだ。」こうして二人の「原始人類」は結び合うことができたというのである。私はこの話を聞いた時、大へん感動したものだ。というのはジャワの各地方には昔からその女性の性格の特色を伝えるいろいろな言い伝えが残っているが、よい女性の資格としては一様に「やさしさ」を強調しているからなのである。たとえば中部ジャワの女性は今までもバドマサリ、アレダシ(註四)(微風にゆらく蓮の花)とよばれ、情深く、やさしい心の持主でよい家庭の主婦となるといわれている。「中部ジャワの女? ああ、いい人

たちですよ。女房にするならあの辺の女というくらいです。」何人ものインドネシア人は私に実際こういったものだ。このほか、ブカロンガン地方の女性はイステリ・クンチャナ（黄金の妻）、ケドゥーの女性は、ブディウタミ（敏感で貞淑な）、マディウン地方の女性はマダ・カンギアン（微風にゆらく焔）などいろいろな別称が与えられているが、いずれもインドネシア人にとっては理想の女性のタイプと考えられているようだ。彼女たちはいずれも蓮の花から生れたその「原始女性」の性質を負うのにふさわしい存在なのである。

（註一） ジャワはインド文化によって開花の光を与えられたため、ヒンズーの神の名がひろまっている。

（註二） 東部ジャワにあるジャワの最高峰の火山（高さ3676m）

（註三） 東部ジャワのプロモ火山の火口原の砂原

交 通 事 故

有 末 武 夫

“1姫、2虎、3ダンプ”という言葉がある。これは女子大学生にはたいへん失礼ではあるが、車を運転する際、よく注意しなければならない相手は、この順序だという。ご婦人方の運転する車は、どうしてもアクセルやブレーキの踏み方や、ハンドルの切り方が一呼吸遅れがちで、また思わぬところで急停車する。このため、前にご婦人が運転する車がいる時には十二分に気をつけよということらしい。しかし本当はご婦人そのものに気をとられて、運転を誤らないようにとの、男性への忠告かも知れない。酔っぱらい運転は取り締りが厳しくなり、少なくともはなったが、新聞の交通事故の記事には、まだまだ酔っぱらい運転が後をたたない。

さて、第3のダンプカーであるが、これは文字通り走る凶器である。これと衝突したらいかにか高級乗用車といえども、ひとたまりもない。そしてダンプの運転手は無謀だとよくいわれる。しかしダンプ事故の陰には、日本のもつ社会経済のひずみが、若い運転手にしわよせされている、といった少し大げさだろみか。

近年の砂利採取業は、東京・神奈川・埼玉など大都市近郊の河原の砂利を取り尽くし、山梨・長野・福島にその中心を移している。砂利採取業者は、輸送費を低くおさえることが唯一の儲け口である。このため安く働かせることのできる“流れ者”や“交通事故の前科者”を雇い、しかも運転手が独立して運搬業をしているという形をとらせているという。これは事故を起しても採取業者は無関係で、運搬人は損害賠償の能力がなく、被害者が泣き寝入りになるための仕組みともみられる。運転手は車も所有せず、車代の積立てとして賃金の中から多額の金を差引かれ、生活に追われて、